

観光ビジネス学科新入生の遠隔授業受講に関する調査 (2020年度)

QUESTIONNAIRE FINDINGS REPORT ABOUT REMOTE CLASSES OF FIRST-YEAR TOURISM BUSINESS STUDENTS IN 2020

佐藤美輪 ・ 吉野千乃 ・ 小形美樹
SATOUE Miwa, YOSHINO Chino, OGATA Miki

キーワード：遠隔授業 オンデマンド授業 双方向授業 定量分析 定性分析

Key words : remote classes, on-demand classes, interactive classes, quantitative analysis, qualitative analysis

要 旨

観光ビジネス学科新入生に、遠隔授業受講に関する調査を実施した。定量データでは、オンデマンド授業に比べ、双方向授業の方が理解できたとの回答が多かった。定性データでも、遠隔授業は通学に時間がかからないことや動画を繰り返し見ることによって復習ができることが利点である一方、課題が負担であることやインターネット環境の整備が必要であることが課題として挙げられた。本調査結果を今後の遠隔授業実施の際に有効活用するものとする。

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度の大学新入生は例年と違った学生生活を送ることとなった。本学でも遠隔授業をせざるを得ない状況となり、多くの新入生は入学式で直接顔を合わせることすらなく、遠隔授業で学修をスタートさせた。感染拡大がいったん落ち着いた夏ごろからは対面授業も実施されたが、本稿執筆の2021年1月末現在、再び感染は拡大しており、今後の授業においても対面のみで実施していくことは困難な状況である。このような中、教員は、学生の学修機会〔1〕を確保するだけでなく、学修を継続させる工夫をしていかなければならない。

本資料は、観光ビジネス学科2020年度1年生を対象としたアンケート調査から、学生の遠隔授業に対する評価や受講の実態を検証したものである。本資料が、今後の授業形態の改善や学修者の目線に立った遠隔授業のあり方等を検討する際の一助になれば幸いである。

2. 遠隔授業の導入状況

仙台青葉学院短期大学では、2020年4月初旬に予定されていた入学式と新入生オリエンテーションは中止とし、5月7日よりオリエンテーションを含む遠隔授業を実施することにした〔2〕。観光ビジネス学科では、講義科目については極力前期に移動して遠隔授業で実施し、対面にすることが望ましい演習科目や

表1 2020年度観光ビジネス学科1年生の受講形態

<前期>

前期科目		後期科目																
科目名		1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回		
必修科目	英語Ⅰ								オンデマンド									
	観光概論								オンデマンド									
	数理リテラシー								オンデマンド									
	情報処理								対面(7月・8月)									
	経営学入門								オンデマンド						対面(8月)			
	日本語表現法								オンデマンド									
	国内観光地理Ⅰ								オンデマンド									
	基礎キャリア形成ゼミ	オンデマンド												Zoom				
	ビジネスマナー	オンデマンド												Zoom				
	基礎ゼミ	対面(7月)	オンデマンド												対面(8月) (第14回はZoom講演を教室で視聴)			オンデマンド
選択科目	観光ビジネス論(後期科目)								オンデマンド									
	マーケティング(後期科目)								オンデマンド									
	旅行業法	オンデマンド							Zoom			対面(7月・8月)						
	宿泊ビジネス実務								オンデマンド									
	旅行業約款	オンデマンド							Zoom			対面(7月・8月)						
	国内運賃・旅費計算Ⅰ	オンデマンド							Zoom			対面(7月・8月)						
	観光英語								オンデマンド									
	エアラインビジネス実務								オンデマンド									
	旅行業務演習Ⅰ(集中)								対面(8月)									
	旅行業務演習Ⅱ(集中)								対面(8月)									

※20科目中17科目(85%)を遠隔(オンデマンドまたはZoom、途中から対面にしたものも含む)で実施

<後期>

	科目名	授業方法	備考
必修科目	英語Ⅱ	対面	
	大学生活論	対面	
	コミュニケーション論	オンデマンド	
	観光ビジネス実務総論	オンデマンド	
	情報機器演習	対面	
	ビジネス英会話	対面	
	総合演習Ⅰ	対面	
選択科目	実践キャリア形成ゼミ	対面	第12回目のみオンデマンド
	鉄道ビジネス実務	対面	
	ホテル・ブライダルサービス	対面	
	秘書実務	対面	
	国内運賃・旅費計算Ⅱ	Zoom	第13回～第15回のみ対面
	TOEIC演習	対面	
	英会話基礎	Zoom	第13回～第15回のみ対面
	地域づくり演習	対面	

※15科目中4科目(27%)を遠隔(オンデマンドまたはZoom、最後の3回のみ対面にした科目は含む。1回のみオンデマンドとなった科目は除く)で実施

実習科目は後期に実施するという大学の方針に沿って配当時期を一部変更し、1年生に対しては、表1のとおり、遠隔授業を提供した。その結果、後期の講義科目「観光ビジネス論」と「マーケティング」を前期に実施、演習科目であっても学生の学修効果を考慮し前期に実施すべきと判断した「基礎キャリア形成ゼミ」「基礎ゼミ」などは移動せずに、遠隔及び遠隔と対面の併用で実施した。また、「英語Ⅰ」は語学であるため、本来対面での実施が望ましいと思われたが、前期に実施しなければ後期の「英語Ⅱ」の学修が困難であること、年間を通しての科目数のバランスを調整する必要があったことから、カリキュラムどおり前期に実施した。

なお、講義動画配信によるオンデマンド授業（以下、オンデマンド授業）とZoomによる双方向授業（以下、Zoom授業）のどちらを実施するかは、基本的には科目担当者の選択に任せた。その結果、前期については「ビジネスマナー」「基礎キャリア形成ゼミ」「旅行業法」「旅行業約款」「国内運賃・旅費計算Ⅰ」が第4回目、あるいは第5回目からZoom授業へと移行した。さらに、国内旅行業務取扱管理者試験の学修にもかかわる「旅行業法」「旅行業約款」「国内運賃・旅費計算Ⅰ」については、第10回目（試験日の約1か月前）から対面授業に移行した。教員が受講者の理解度を把握し、受講者のモチベーションアップを図るためには、対面授業のほうが効果的だと教員が判断したからである。後期については原則として対面授業を実施することにしたため、前期へと配当時期を変更できなかった「観光ビジネス実務総論」と「コミュニケーション論」のみをオンデマンド授業とした。

3. 調査の概要

本調査は本学研究倫理審査委員会の承認を得て、2021年1月に観光ビジネス学科1年生を対象に実施した「遠隔授業受講に関するアンケート調査」である。調査の目的と調査の方法は以下のとおりである。

3.1 調査の目的

1. 観光ビジネス学科1年生にアンケート調査を実施し、遠隔授業をどのように受け止めていたかを検証する。
2. 学生の実態を把握することにより、遠隔授業の課題と改善点を明らかにする。

3.2 調査の方法

遠隔授業に関する23項目について4件法による受講評価（1:全くそう思わない 2:そう思わない 3:そう思う 4:とても思う）と自由記述4項目で構成し、オンデマンド授業とZoom授業に分けて回答するように設計した（資料参照）。学生は必修科目の最終授業終了後に、教員からアンケートの主旨、倫理的配慮、回答の任意性の説明を受け、オンラインにより回答を提出した。回答の提出をもって研究参加の同意とみなした。回答数は、1年生在籍者64名中の56名（回収率87.5%）であった。

分析には、Js-STAR[3]およびKH Coderを使用した。

4. 調査結果

4.1 定量データの検証

4.1.1 オンデマンド授業

オンデマンド授業についての質問では、「①集中して授業を受けることができた」、「③課題の提示や指示が分かりやすかった」、「⑥課題を適切に提出できた」の回答傾向に偏りが認められた。回答傾向に何らかの有意差が生じているかを明らかにするため、上記3つの質問についてカイ二乗検定を行い、さらに各

表2 度数集計と基本統計量

回答：	1. 全くそう 思わない	2. そう思わ ない	3. そう思う	4. とても そう思う	平均	分散	SD	N
①集中して授業を受けることができた	3	19	30	4	2.63	0.49	0.7	56
②授業の資料が入手しやすかった	5	23	21	7	2.54	0.69	0.83	56
③課題の提示や指示が分かりやすかった	2	15	24	15	2.93	0.69	0.83	56
④教員とのコミュニケーションがスムーズにできた	8	28	18	2	2.25	0.55	0.74	56
⑤教員への質問がしやすかった	8	22	21	5	2.41	0.72	0.85	56
⑥課題を適切に提出できた	1	9	28	18	3.13	0.55	0.74	56
⑦授業内容を概ね理解できた	0	11	37	8	2.95	0.34	0.59	56
⑧通常の授業(対面授業)よりも自分のペースで学修することができた	2	13	17	24	3.13	0.8	0.9	56
⑨通常の授業(対面授業)よりも学修効果を実感できた	13	24	10	9	2.27	1	1	56

項目の比較のために行ったライアンの多重比較分析(5%水準)の結果を順に記す。

①集中して授業を受けることができた

回答傾向には1%水準で有意差が生じていることが分かった ($\chi^2(3) = 35.857, p < .01$)。

表3の多重比較分析の結果より、「1 全くそう思わない」、「4 とてもそう思う」よりも「2 そう思わない」、「3 そう思う」のほうが有意に多かったということは明らかとなったが、2と3の間には有意差が認められなかった。集中度については際立つ意見がなかったということが読み取れる。

③課題の提示や指示が分かりやすかった

回答傾向には1%水準で有意差が生じていることが分かった ($\chi^2(3) = 28.000, p < .01$)。表4の多重比較分析より「2 そう思わない」が「1 全くそう思わない」、「4 とてもそう思う」より有意に多かつ

表3 ①多重比較分析

比較	臨界比	検定	名義水準
1 < 2	3.2	* $p = 0.0014$	0.0125
1 < 3	4.53	* $p < 0.0002$	0.00833
1 = 4	0	ns $p > .05$	0.025
2 = 3	1.43	ns $p > .05$	0.025
2 > 4	2.92	* $p = 0.0036$	0.025
3 > 4	4.29	* $p < 0.0002$	0.0125

表4 ③多重比較分析

比較	臨界比	検定	名義水準
1 < 2	3.17	* $p = 0.0016$	0.0125
1 = 3	1.77	ns $p > .05$	0.025
1 = 4	1.58	ns $p > .05$	0.025
2 = 3	1.33	ns $p > .05$	0.025
2 > 4	4.56	* $p < 0.0002$	0.00833
3 > 4	3.35	* $p = 0.0008$	0.0125

表5 ⑥多重比較分析

比較	臨界比	検定	名義水準
1 = 2	2.21	ns $p = 0.0264$	0.025
1 < 3	4.83	* $p < 0.0002$	0.00833
1 < 4	3.67	* $p < 0.0002$	0.0125
2 < 3	2.96	* $p < 0.003$	0.0125
2 = 4	1.54	ns $p > .05$	0.025
3 = 4	1.33	ns $p > .05$	0.025

たということが明らかとなったが、「3 そう思う」との間には有意差が認められなかった。

⑥課題を適切に提出できた

回答傾向には1%水準で有意差が生じていることが分かった。 $(\chi^2(3) = 29.000, p < .01)$ 。

表5の多重比較分析結果より、「1 全くそう思わない」より「3 そう思う」、「4 とてもそう思う」が有意に多く、課題の提出を適切に行えたと考えている学生が多かったということが見受けられた。本学科におけるオンデマンド授業では、課題をLMS内の指定フォルダに提出するという形式がほとんどであったが、動画の視聴と課題の提出がウェブ上で連動して行えていたという可能性がうかがえる。

4.1.2 Zoom 授業

表6 [度数集計と基本統計量]

回答：	1. 全くそう 思わない	2. そう思わ ない	3. そう思う	4. とても そう思う	平均	分散	SD	N
①集中して授業を受けることができた	2	9	36	9	2.93	0.47	0.68	56
②授業の資料が入手しやすかった	3	21	25	7	2.64	0.6	0.77	56
③課題の提示や指示が分かりやすかった	1	4	38	13	3.13	0.37	0.6	56
④教員とのコミュニケーションがスムーズにできた	2	17	29	8	2.77	0.55	0.74	56
⑤学生同士でのグループワークや話し合いがスムーズにできた	4	20	26	6	2.61	0.61	0.78	56
⑥教員への質問がしやすかった	4	21	22	9	2.64	0.71	0.84	56
⑦課題を適切に提出できた	2	5	32	17	3.14	0.52	0.72	56
⑧授業内容を概ね理解できた	1	6	37	12	3.07	0.39	0.63	56
⑨通常の授業(対面授業)よりも自分のペースで学修することができた	3	14	28	11	2.84	0.65	0.8	56
⑩通常の授業(対面授業)よりも学修効果を実感できた	4	25	17	10	2.59	0.76	0.87	56

Zoom 授業では「①集中して授業を受けることができた」、「③課題の提示や指示が分かりやすかった」、「⑦課題を適切に提出できた」、「⑧授業内容を概ね理解できた」の4項目に対し回答傾向に偏りが生じていた。こちらも詳細な回答の傾向を探るため、カイ二乗検定とライアン多重比較分析（5%水準）を行った。

①集中して授業を受けることができた

回答傾向には1%水準で有意差が生じていた $(\chi^2(3) = 48.429, p < .01)$ また、多重分析の結果(表7)より、「3 そう思う」が他のすべての選択肢より有意に多かったということが認められた。

③課題の提示や指示が分かりやすかった

回答傾向には1%水準で有意差が生じていた $(\chi^2(3) = 60.429, p < .01)$ 。表8より「3 そう思う」が他のすべての選択肢より有意に多く回答されていたことが分かった。「4 とてもそう思う」も「1 全くそう思わない」より有意に多かったため、Zoom 授業では課題の提示、指示が分かりやすかったという明確な傾向が読み取れた。

⑦課題を適切に提出できた

回答傾向には1%水準で有意差が生じていた $(\chi^2(3) = 39.857, p < .01)$ 。多重比較分析結果(表9)より「3 そう思う」、「4 とてもそう思う」といった回答が「1 全くそう思わない」、「2 そう思わない」より有意に多かった。Zoom 授業においても、学生は課題提出が円滑に行えたと考えており、遠隔授業の利点の1つは課題提出を適切に行えたことであるといえよう。

⑧授業内容を概ね理解できた

回答傾向には1%水準で有意差が生じていた ($\chi^2(3) = 54.714$, $p < .01$)。表10のとおり「3 そう思う」、「4 とてもそう思う」が「1 全くそう思わない」、「2 そう思わない」より有意に多かった。オンライン授業と比較して、Zoom 授業では学生の理解度が促進されていたと推察できる。

表7 ①多重比較分析

比較	臨界比	検定	名義水準
1 = 2	1.81	ns $p > .05$	0.0125
1 < 3	5.35	* $p < 0.0002$	0.00833
1 = 4	1.81	ns $p > .05$	0.0125
2 < 3	3.88	* $p < 0.0002$	0.025
2 = 4	-0.24	ns $p > .05$	0.025
3 > 4	3.88	* $p < 0.0002$	0.0125

表8 ③多重比較分析

比較	臨界比	検定	名義水準
1 = 2	0.89	ns $p > .05$	0.025
1 < 3	5.76	* $p < 0.0002$	0.00833
1 < 4	2.94	* $p = 0.0032$	0.0125
2 < 3	5.09	* $p < 0.0002$	0.0125
2 = 4	1.94	ns $p > .05$	0.025
3 > 4	3.36	* $p = 0.0008$	0.025

表9 ⑦多重比較分析

比較	臨界比	検定	名義水準
1 = 2	0.76	ns $p > .05$	0.025
1 < 3	4.97	* $p < 0.0002$	0.00833
1 < 4	3.21	* $p = 0.0012$	0.0125
2 < 3	4.27	* $p < 0.0002$	0.0125
2 < 4	2.35	* $p = 0.0188$	0.025
3 = 4	2	ns $p > 0.0444$	0.025

表10 ⑧多重比較分析

比較	臨界比	検定	名義水準
1 = 2	1.51	ns $p > .05$	0.025
1 < 3	5.68	* $p < 0.0002$	0.00833
1 < 4	2.77	* $p = 0.0054$	0.0125
2 < 3	4.57	* $p < 0.0002$	0.0125
2 = 4	1.18	ns $p > .05$	0.025
3 > 4	3.43	* $p = 0.0006$	0.025

3. 生活習慣

今年度の遠隔授業実施に際して、学生も大きな生活様式の変化を経験したことが予想される。本アンケートでは、遠隔授業に纏わる生活習慣についての質問も行った。(表11)

表11 [度数集計と基本統計量]

回答：	1. 全くそう 思わない	2. そう思わ ない	3. そう思う	4. とても そう思う	平均	分散	SD	N
①授業時間以外にも学修する時間が増えた	8	24	16	8	2.43	0.83	0.91	56
②1日あたりの睡眠時間が増えた	8	18	17	13	2.63	1.00	1.00	56
③自分でスケジュール管理を行い、計画的に授業の受講ができた	5	16	20	15	2.8	0.89	0.94	56

表11より、「②1日あたりの睡眠時間が増えた」「③自分でスケジュール管理を行い、計画的に授業の受講ができた」の回答傾向に偏りが認められたため、カイ二乗検定と多重比較分析を行った。

②1日あたりの睡眠時間が増えた

睡眠時間の増加については有意傾向が認められなかった ($\chi^2(3) = 4.429$, ns)。回答傾向にはばらつきが多く、個人差が多かったということが読み取れた。睡眠時間をどう確保するか、という点については、次の③とも関連があると思われる。

③自分でスケジュール管理を行い、計画的に授業の受講ができた

結果に有意差が認められた ($\chi^2(3) = 8.714, p < .05$) ため、多重比較分析を行った。(表12)

表12 ③多重比較分析

比較	臨海比	検定	名義水準
1 = 2	2.18	ns $p > .0286$	0.0125
1 < 3	2.8	* $p < 0.005$	0.00833
1 = 4	2.01	ns $p > .00434$	0.025
2 = 3	0.5	ns $p > .05$	0.025
2 = 4	0	ns $p > .05$	0.025
3 = 4	0.68	ns $p > .05$	0.0125

結果として、「1 全くそう思わない」より「3 そう思う」が多いという点のみに有意差が見られた。この点についても個人差が大きいということが読み取れる。

4. 全体的な満足度

最後に、オンデマンド授業と、Zoom 授業に対しての全体的な満足度を以下にまとめる。(表13)

表13 [度数集計と基本統計量]

回答：	1. とても不満	2. 不満	3. 満足	4. とても満足	平均	分散	SD	N
オンデマンド授業についての満足度	3	17	31	5	2.68	0.51	0.72	56
Zoom 授業についての満足度	5	24	17	10	2.57	0.79	0.89	56

カイ二乗検定の結果、回答傾向に有意差が認められた ($\chi^2(3) = 35.714, p < .01$) ため、多重比較分析を実施した(表14)。オンデマンド授業では「2 不満」と「3 満足」が「1 とても不満」と「4 とても満足」に対して有意に多かったが、2と3の回答傾向には有意差が認められなかった。

オンデマンド授業全体に対しては不満を抱いた学生が一定数存在していたのと同時に「満足」と答えていた者もいたことが分かる。

Zoom 授業についても回答傾向に有意差が認められた ($\chi^2(3) = 35.714, p < .01$) ため、多重比較分析を行った(表15)。その結果、「2 満足」が「1 とても不満」より多いという傾向のみに有意差が認められ、その他項目間の比較には有意差が生じていなかった。

オンデマンド授業についても Zoom 授業についても、数字からは満足度に対して学生の意見が分かっていたということのみしか読み取れないため、詳細は後の自由記述回答分析にて触れる。

表14 オンデマンド授業の満足度

比較	臨界比	検定	名義水準
1 < 2	2.91	* $p = 0.0036$	0.0125
1 < 3	4.63	* $p < 0.0002$	0.00833
1 = 4	0.35	ns $p > .05$	0.025
2 = 3	1.88	ns $p > .05$	0.025
2 > 4	2.35	* $p = 0.0188$	0.025
3 > 4	4.17	* $p < 0.0002$	0.0125

表15 Zoom 授業の満足度

比較	臨界比	検定	名義水準
1 < 2	3.34	* $p < 0.0008$	0.00833
1 = 3	2.35	ns $p = 0.0188$	0.0125
1 = 4	1.03	ns $p > .05$	0.025
2 = 3	0.94	ns $p > .05$	0.025
2 = 4	2.23	ns $p = 0.0258$	0.0125
3 = 4	1.15	ns $p > .05$	0.025

4.2 定性データの検証

自由記述は下記のとおり、遠隔授業をオンデマンド授業と Zoom 授業に分け、それぞれ良かった点と不満に思った点を回答させた。

【2】遠隔授業を受講して良かった点があれば自由に記述してください。

1. オンデマンド（講義動画配信）

2. Zoom による双方向授業

【3】遠隔授業を受講して困った点、不満に思った点などがあれば自由に記述してください。

1. オンデマンド（講義動画配信）

2. Zoom による双方向授業

本問については、81件の回答を得た。内訳として、良かった点47件（オンデマンド授業28件、Zoom 授業19件）、不満に思った点34件（オンデマンド授業19件、Zoom15件）であった。重複した回答は1件として数えた。

4.2.1 分析方法

回答に対し、テキストマイニングソフト KH Coder を使用し共起ネットワーク分析を行った。分析にあたって、対象となるテキストデータを KH Coder を用いてデータベース化し、分析可能な状態にするための処理（前処理）を行った。さらに、KH Coder の機能である「茶筌」を使用し複合語の検出を実施し、意味を持たない抽出語を除いた複合語を強制抽出した。その後、最小単位の語に分割した上で、それぞれの回数や語と語の文章内での関係性等を確認した（表16、図1、図2、図3、図4）。

表16 頻出語上位5語

良かった点 (オンデマンド)		良かった点 (Zoom)		不満点 (オンデマンド)		不満点 (Zoom)	
頻出語	回数	頻出語	回数	頻出語	回数	頻出語	回数
自分	17	授業	5	課題	7	悪い	7
ペース	10	オンデマンド	4	分からない	6	困る	4
出来る	10	グループワーク	4	質問	4	回線	3
見る	9	時間	4	多い	4	環境	3
受ける	9	受ける	4	学校	3	電波	3

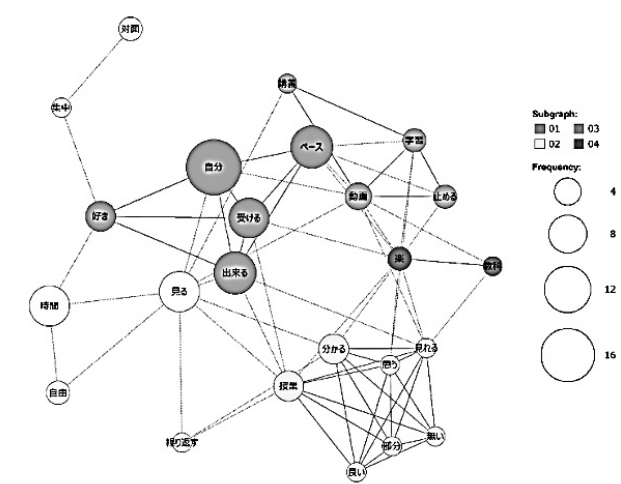


図1 オンデマンド授業 評価点

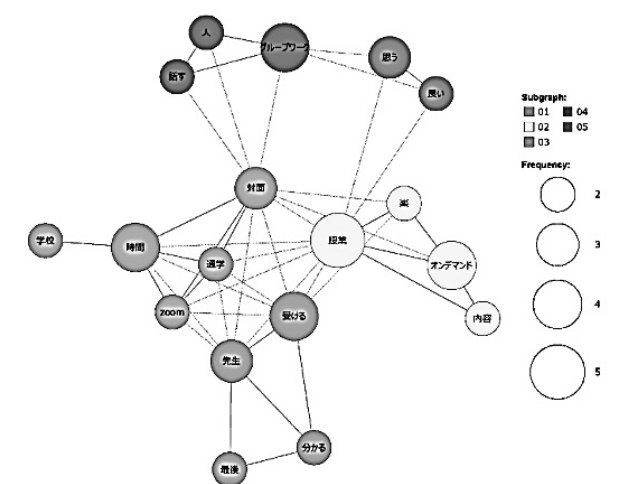


図2 Zoom 授業 評価点

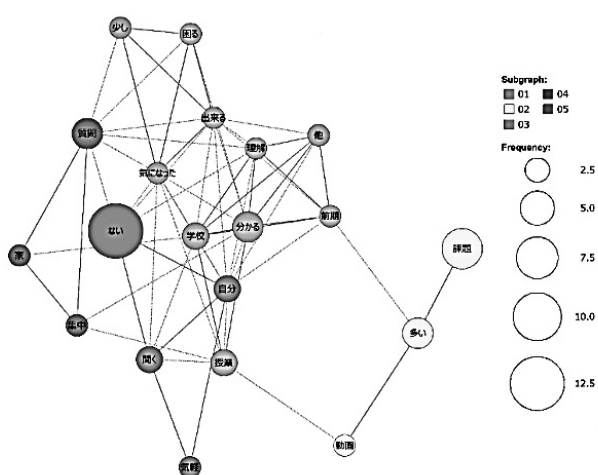


図3 オンデマンド授業 不満点

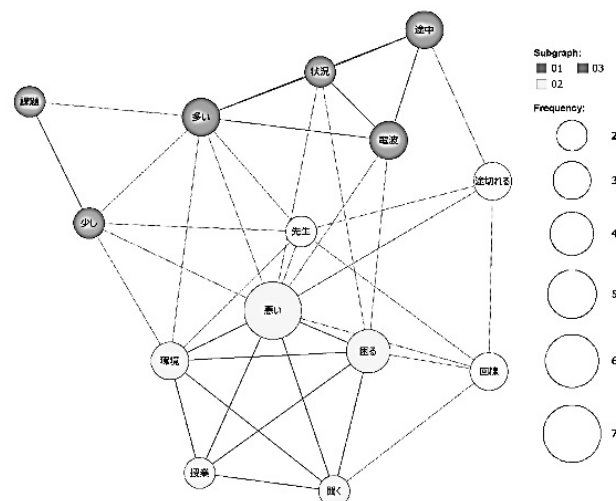


図4 Zoom授業 不満点

4.2.2 分析の結果

4つの設問に対し、それぞれ頻出語上位5語を抽出したが、同じ語句の抽出はなかった。

まず、オンデマンドの良かった点は、頻出が多いものから「自分」(17回)、「ペース」(10回)、「出来る」(10回)、「見る」(9回)、「受ける」(9回)という順番であった。中心語句として「自分」「ペース」の抽出が突出し、「受ける」「出来る」「見る」と共起していた。さらに、「自由」と「時間」の共起もみられ、「自分」で「ペース」や「時間」を管理していることが示された。自分でペース配分のコントロールができることを利点として捉えた結果であろう。そして、「授業」を「繰り返す」ことや「動画」を「止める」ことが「分かる」「良い」と共起していることから、ライブ授業にはない利点として、授業内容を「繰り返し」見ることができる点が評価されていた。

次に、双方向授業の良かった点は、頻出が多いものから「授業」(5回)、「オンデマンド」(4回)、「グループワーク」(4回)、「時間」(4回)、「受ける」(4回)という順番であった。「授業」と「オンデマンド」が上位の特徴語として抽出されたのは、オンデマンドと比較することで、授業内容が分かりやすい、理解しやすい、などの肯定的評価の記述があったためである。加えて、通学にかかる「時間」がないことも利点としてあげられた。さらに、Zoomでは「グループワーク」も実施されたことから画面越しとはいえ他の学生と交流ができたことが評価された。

一方、オンデマンドの不満点としては、頻出が多いものから「課題」(7回)、「分からない」(6回)、「質問」(4回)、「多い」(4回)、「学校」(4回)という順番であった。「課題」と「多い」が共起していたことから、遠隔という状況で課せられる「課題」に負担を感じていたようである。そして、「ない」と強い共起関係が示された語は「質問」「気になった」「聞く」である。これは、一方的な配信のため、疑問点をその場で聞くことができないことを、教員とのコミュニケーション不全と捉え、不満に思ったのであろう。大学生としての学びの基本が分からない状態で受動的な動画配信は理解に限界があることが推測され、今後検討が必要である。

最後に、双方向授業の悪かった点では、頻出が多いものから「悪い」（7回）、「困る」（4回）、「回線」（3回）、「環境」（3回）、「電波」（3回）という順番であった。特に「環境」が「悪い」「困る」に強い共起関係が示された。加えて、「電波」「状況」「途中」にも共起関係が示された。これらのことから、ネットワーク環境に対して大きな不満を抱えていることが確認された。入学時の通信環境調査の時点では、3割程度が自宅にWi-Fi環境が整備されていない状況であったため、安定した通信環境を得られない学生

がいたことが推測される。さらに、オンデマンドと同様「課題」が「多い」と感じている記述もあげられていた。

5. 考 察

以上の分析結果から、以下の3点が考察される。

1点目は、ほとんどの学生がオンラインからの指導であっても内容を理解して適切に対応することが可能だということである。オンデマンド授業では、受講の際の集中力や、教員による課題の提示や指示に対し、賛否双方において際立った意見が認められず、また、課題を負担に感じているものの、提出を適切に行えたと感じている学生が多かったことから、裏づけられた。

2点目は、オンデマンド授業は、自律的な学生にとっては効率的な授業形式で有益であるものの、自己管理ができない学生には、対面授業以上の指導が必要になることである。アンケートでは、自分の生活リズムに合わせて授業が受講できる、通学時間が削減できるなどの意見が挙げられていたが、教員の課題提出のログ記録確認では、締切間際の学生が散見されたことや、課題の未提出が続いて単位取得不可となり退学した学生もいたからである。教員は、オンデマンド授業の利点と欠点を十分に把握したうえで、学修指導と生活指導を行う必要があるだろう。

3点目は、Zoom 授業では、ライブミーティングであるという利点が最大限に活かされていたということである。特に、授業に集中できた、課題の提示、指示が分かりやすかったという点は、双方向ゆえの効果であり、その結果、課題の提出が適切に行えた上に、授業内容を概ね理解できたと考えている学生が多かったからである。

6. おわりに

新型コロナウイルス感染症は社会に大きな変化をもたらした。感染症対策に伴い、これまで当たり前に行われてきた通勤や通学が自粛され、テレワークやオンライン授業が普及し、それにともないネット環境や必要なツールが急速に整備された。本学でも、学校と学生の双方が急遽、通信環境を整えて、遠隔授業を開始するに至った。開始当初はトラブルもあったが、現在は解消されている。学生の適応力に加え、教員の努力と連携が功を奏したのであろう。しかしながら、遠隔授業の実施形態や内容については、暗中模索であったため、充実していたとは言い難い。特に観光ビジネス学科では、観光について学んでいくという学科の特性上、遠隔教育ではどうしても限界のあるフィールドワークやインターンシップなどにどのように対応していくかなどの課題も残っている。本調査結果を端緒とし、ウィズコロナ、ポストコロナの時期も見据えたうえで、対面であれ遠隔であれ、学生が観光ビジネス学科での学修に意義を感じられるように教育の改善と充実〔4〕を図っていきたい。

参考資料

樋口耕一（2014）『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して』、ナカニシヤ出版、KH Coder(Ver.3.Alpha.15h)<http://khc.sourceforge.net/>
神奈川大学教育支援センター(2020)「遠隔授業の有効性と課題」に関する調査アンケート 学外公開用。
https://www.kanagawa-u.ac.jp/news/details_20645.html

〔1〕 文部科学省は、令和3年1月5日付の高等教育局長通知「大学等における新型コロナウイルス感染症対策の徹底と学生の学修機会の確保について（周知）」において、「遠隔授業等の実施に関する特

例的な措置についての留意事項」に「感染の状況は日々刻々と変化しているものであることから、一度実施方針（筆者注：面接授業と遠隔授業のことを指す）を決定した後においても、地域の感染状況や、学生の希望等も踏まえ、必要に応じてその実施方法の見直しや更なる改善に努めることが求められること」と記載している。

- [2] 仙台青葉学院短期大学の遠隔授業の開始時期やそれに伴う通信環境整備に関する諸連絡の詳細については、ホームページ「【過去記事まとめ】新型コロナウイルス感染症への対応について」
https://seiyogakuin.ac.jp/topics/detail.php?topics_c=395 を参照されたい。
- [3] 統計処理ソフト Js-STAR (ver.1.0.1j) <http://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/>
- [4] 文部科学省も令和2年11月11日に「大学教育のデジタルイニシアティブ（Scheem-D）ピッチ参画者の募集について」という事務連絡を発信している。このプロジェクトは、大学教職員、学生、企業の方などを対象とし、デジタル技術を上手に活用して大学教育の質・価値を高めるアイデアを募集し産学連携等で大学教育の価値を高めようというものであった。
詳細は、Scheem-D 公式ウェブサイト：<https://scheemd.mext.go.jp/apply.html>

資料：質問紙

観光ビジネス学科	遠隔授業についてのアンケート	2. 通常の授業（対面授業）受講時と比較して、遠隔授業を受講していた時のあなたの生活について答えてください。
●質問には回答の選択肢があるものと、自由記述のものがあります。もれなく回答してください。		①授業時間以外にも学修する時間が増えた
●最後に学籍番号を忘れずに記入してください。		②1日あたりの睡眠時間が増えた
【1】以下の各質問について、今年度あなたが受講した遠隔授業全体を振り返り、最も当てはまるものを1つ選び回答してください。		③自分でスケジュール管理を行い、計画的に授業の受講ができた
1. 全くそう思わない	2. そう思わない	3. 今年度受講した遠隔授業全体について、総合的な満足度を教えてください。
	3. そう思う	1. とても不満
	4. とても思う	2. 不満
		3. 満足
		4. とても満足
1. 通常の授業（対面授業）受講時と比較して、遠隔授業の受講で実感したことを答えてください。		4. 今後（平常時）も、遠隔授業を受講したいと思いますか。
1) オンデマンド（講義動画配信）		1. 全くそう思わない
■オンデマンド（講義動画配信）全体について、あなたの視聴状況を1つ選んでください。		2. そう思わない
1. 100－80％	2. 79－50％	3. そう思う
①集中して授業を受けることができた		4. とても思う
②授業の資料が入手しやすかった		
③課題の提示や指示が分かりやすかった		【2】遠隔授業を受講して良かった点があれば自由に記述してください。
④教員とのコミュニケーションがスムーズにできた		1. オンデマンド（講義動画配信）
⑤教員への質問がしやすかった		
⑥課題を適切に提出できた		2. Zoom による双方向授業
⑦授業内容を概ね理解できた		
⑧通常の授業（対面授業）よりも自分のペースで学修することができた		【3】遠隔授業を受講して困った点、不満に思った点などがあれば自由に記述してください。
⑨通常の授業（対面授業）よりも学習効果を実感できた		1. オンデマンド（講義動画配信）
2) Zoom による双方向授業		2. Zoom による双方向授業
①集中して授業を受けることができた		■あなたの学籍番号を記入してください。
②授業の資料が入手しやすかった		
③課題の提示や指示が分かりやすかった		■回答日を記入してください。
④教員とのコミュニケーションがスムーズにできた		
⑤学生同士でのグループワークや話し合いがスムーズにできた		●以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。
⑥教員への質問がしやすかった		
⑦課題を適切に提出できた		
⑧授業内容を概ね理解できた		
⑨通常の授業（対面授業）よりも自分のペースで学修することができた		
⑩通常の授業（対面授業）よりも学習効果を実感できた		